

## 2024年度 伊那西高等学校 学校自己評価（中間報告）

重点方針		掲載頁
1.	「建学の精神」の共有	2～3
2.	入学者の確保	4～5
3.	教育の質の向上	6～7
4.	学生・生徒・園児に対する支援の充実	7～9
5.	地域貢献・地域連携活動の推進	10～11
6.	PTA・同窓会との協力	12
7.	進路支援の強化・充実	13～14

### 注記

上記「重点方針」ならびに、以下の「重点方針」に基づく「事業目標」及び「評価指標」は、高松学園中長期的計画を示したものであるため、原則としてそのままの記載となっている。

【重点方針】 1.「建学の精神」の共有

【事業目標】	宗教行事ならびに「仏教」（学校設定教科）の意義を再確認し、本校が存在する意味を明確にする。
【評価指標】	教員の研修への取り組み状況／生徒が何を学び何を考えたか

施策名	内容	関連部局 (担当部局)
年間行事における意義の再構築	①宗教行事（釈尊降誕会・報恩講）の本校における位置を確認し、生徒の主体的取り組みを構築する。 (評価指標) 終了後、生徒が何を学び何を考えたか。 欠席者を0にする。	宗教科 HR
学年行事における意義の再構築	①「東本願寺研修」（1年生）を通じ、本校生徒としてどのような高校生活を送るべきかを自覚する。 (評価指標) 終了後、生徒が何を学び何を考えたか。 欠席者を0にする。	宗教科 HR
授業による意義の再構築	①「仏教」の授業を通じて、毎日の生活を振り返り、人としていかに生きるべきかを考えながら生活できる人になるように努力する。 (評価指標) 生徒が毎日の生活とどう結びつけ、自分の生活にどんな変化をもたらしたか。	宗教科 HR
教員研修	①初任研修、宗教研修、宗教担当者研修への参加 (評価指標) 研修報告書の提出	管理職 宗教科

今年度の主なる留意点

1. 生徒が、宗教行事を通して、自己を見つめ、自己のあり方について考えられるようにする。
  - (1) 積極的な参加ができたか。
  - (2) 自己を見つめることができたか。
2. 教員が、宗教行事を通して、生徒の成長を確認し、成長のサポートができるようにする。
  - (1) 宗教行事の意味をきちんと伝え、生徒の積極的参加に寄与できたか。
3. 学校設定教科（宗教）と総合的な探究の時間との連携性を高め、生徒が探究活動を通して、建学の精神を具現化できるように方向付ける。

■反省並びに来年度に向けて

2回にわたって行われた職員研修の中で、「釈尊降誕会」「報恩講」という宗教行事の事前学習を通して、真宗教育をたしかめ、学校の創設の願いを共有することができた。学校に身を置く全ての者（生徒・教員）にとって、上記の宗教行事や諸研修だけでなく、全ての教育活動が「自己」を発見する場となることを願う。

【事業目標】	あたりまえなことをあたりまえにできる生活を徹底し、本校の原点を研ぎ澄ます。
【評価指標】	あいさつ、清掃、身だしなみの3要素において、伝統のスタイルを維持できているか。

施策名	内容	関連部局 (担当部局)
挨拶の励行	①「あいさつ」の励行を徹底し、互いに気持ちの良い生活ができるようにする。 (評価指標) 校内外の人に対して、気持ちの良い(形式的でない)挨拶ができているか。	生徒指導 HR
清掃の徹底	①清掃活動を通して、奉仕の精神を磨くとともに、丁寧な生活者としての基盤を養う。 (評価指標) 清掃開始時間に全員が清掃場所にいるか。 時間いっぱい清掃ができているか。 計画的な清掃が行えているか。	美化委員会 HR
身だしなみの端正	①TPOに応じた服装、所作、表現の大切さを知り、円滑な人間関係を構築できるようにする。 (評価指標) 身だしなみを注意される生徒がいない。	生徒指導 学年会 HR

今年度の主なる留意点	
1.	「縛られ感」や「やらされ感」を持たずに、生徒が実践できるようにする。 (1) 生徒が、「理由」を理解した上で、実践しているか。 (2) 生徒が、自分のそのような姿に誇りを持っているか。 (3) 家庭、地域などの場面においても、同様の実践が行えているか。 (4) 教員の温度差をなくし、同一の価値観と視点で指導に当たっているか。

## ■反省並びに来年度に向けて

<p><b>【最大目標】</b> 要諦である自己実現の援助については、全て職員が日々指導し続けたことで、概ね達成できたのではないかと思います。</p> <p><b>【生徒に求めていくもの】</b> 「清潔感」「高校生らしさ」「基本的生活習慣の確立」についてはさらに高めていきたいと考えており、全ての職員が“自分の言葉”で指導する必要がある。</p> <p><b>【その他】</b> 挨拶、掃除、学校を休まないという3つは本校のクラス運営上の3本柱であり、今後も教職員も原点回帰して励行すべきである。</p>
---

【重点方針】 2. 入学者の確保

【事業目標】	入学者を安定的に確保し、活力と経済力のある学校作りを行う
【評価指標】	第8通学区から160人以上の生徒が確保できているか。 第8通学区以外から10名以上の生徒が確保できているか。

施策名	内容	関連部局 (担当部局)
本校の特色の明確化と広報	① 宗教教育、女性教育、私学教育という本校の特徴を明確にし、その良さを発信する。 パンフレット、チラシ類、HP、SNS等 (評価指標) 様々な媒体で、学校方針が適切に発信できているか。	管理職 生徒募集 広報
	② 募集行事(体験入学、オープンスクール、相談会等)で、本校の良さをPRする。 (評価指標) 参加した生徒の入学率	
入試方法の改定	①地域の公立校、周辺の私立高校の入試方法を考慮し、適切で効果的な入試方法を設定する。 (評価指標) 入試方法の改定が行われたか。	管理職 学校改革
コース制の見直し	①本校の特徴が明確に示せるコースを設定し、それぞれのコースの目標を可視化するとともに、内容の充実を図る。 (評価指標) 令和8年度入試より新しいコース制による入試が実施されるか。	管理職 学校改革
通学方法の見直し	①遠方からの通学、交通至難地域からの通学に備え、スクールバスを充実させる。 (評価指標)	管理職 学校改革
施設設備の充実	①生徒の学習活動やクラブ活動がより効果的かつ安全に行えるような施設設備を整える。 (評価指標) 調理室のリフォーム、自習室の設置、図書館の整備、クラブ活動施設の充実ができたか。	管理職 学校改革 施設

今年度の主なる留意点
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昨年度(令和5年度)入試を検証し、今年度入試のあり方を策定する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 近隣の公立・私立学校の入試方法に照らして、効果的な入試方法となっているか。</li> </ol> </li> <li>2. 本校の「良さ」を明確にし、それが可視化できるような活動を行う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本校の「良さ」を言語化できているか。</li> <li>(2) 地域活動に活発に参加し、本校に対する理解を深めてもらうよう努力する。</li> </ol> </li> <li>3. 高等学校等就学支援金の充実に伴い、公私の授業料格差が縮まったことを周知する。</li> <li>4. 募集行事の再検討を行う。</li> <li>5. 「募集委員会」を中心に、さらなる工夫を凝らした広報、啓蒙活動を行う。</li> </ol>

■反省並びに来年度に向けて

① 生徒募集

年度初めに掲げた「通年の募集活動」という目標は、9月の一日体験入学を皮切りに「オープンスクール」「進学コース説明会」「進学相談説明会」と全てのイベントにおいて「狙い」「内容」を明確したことで概ね達成できた。加えて今年度立ち上げた「伊那西宣伝部」も、募集活動の新たなエッセンスとなった。また、上記イベント以外に「伊那西単独の中学校の進路講話」を開催して下さる中学校もあった。校長講話とは違う角度で、担当の教員や在校生が話すことで、中学生に「伊那西」を知ってもらう契機になった。

② 施設設備の充実

調理室のリフォーム、図書館の整備、クラブ活動施設の充実はできなかったが、スタディールーム（自習室）の設置はできた。全ての教室にプロジェクターを設置することができたため、今まで以上に電子黒板を使った授業がやりやすくなった。

今年度達成できなかった調理室のリフォーム、図書館の整備、クラブ活動施設の充実を目指してやっていきたい。その他、教職員および生徒が使用できるパソコンの台数を増やしていきたい。

【重点方針】 3. 教育の質の向上

【事業目標】	基礎学力の定着に向け、「学び直し」に重点を置く。 授業満足度を高め、「わかった」「できた」という授業にする。
【評価指標】	基礎学力模試（進路マップ）の評価において、80%がC以上の評価を受けられるようになる。

施策名	内容	関連部局 (担当部局)
基礎学力の定着	① 国語・数学・英語を中心に「学び直し」を積極的に行い、基礎学力の定着を実現する。 特に、数学・英語は習熟度別講座で授業を行う。クラス数+1講座程度を用意し、低学力講座は小中学校の学び直しに重点を置く。 (評価指標) 定期試験問題に組み込み評価する。	学習 教科会
新しい教育方法の促進	① ICT教育を推進し、探究型授業の構築に努める。 (評価指標) すべての教員が、ICTを積極的に活用し、探究型授業の促進を行ったか。 ②アクティブラーニングを推進し、新しい入試方法に対応できる力を養成する。 (評価指標) すべての教員が、アクティブラーニングの方法による授業を行い、参加型授業の促進を行ったか。	学習 教科会

授業満足度の向上	①授業評価アンケートを実施し、授業改善に努める。 (評価指標) 授業アンケートを年2回実施し、各自の授業にどのように反映できたか。	学習
	②すべての生徒にとって分かりやすく力の伸長が望める授業を実施する。 (評価指標) どんな工夫ができたか。	
英語力(英会話)向上	①ALT(ウルフ先生)の授業の充実。 ②オンライン英会話の授業の充実。 ③ニュージーランドへの留学を勧める。 (評価指標) 日常英会話程度を話すことができる。	学習 英語科
教員研修の積極的 実施	①教科教育方法における最新情報を知り、技術的向上を図る。 (評価指標) 教科会の充実。入試問題の作成。	学習 教科会
	② 基礎教養の充実を図り、広く生徒の啓蒙に努める。 (評価指標) 自己研修制度の作成	管理職
	③互いの授業を見学し合うことで、切磋琢磨に努める。 (評価指標) 年間5時間以上の授業見学。	学習

今年度の主なる留意点	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒の学習に対する意識を高め、基礎力の向上に努める。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 通常の授業が計画通りかつ効果的に行われているか。</li> <li>(2) 日常的に学習習慣が身につく、家庭学習が恒常的に行われているか。</li> <li>(3) 基礎力テスト、模擬試験における評価が高まっているか。</li> </ol> </li> <li>2. 新しい指導法を積極的に取り入れ、新しい「評価」に対応できるように努める。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 探究型授業の研究および実践が効果的に行われたか。</li> <li>(2) 教員が積極的に研修に参加し、自己の研鑽に努めたか。</li> </ol> </li> <li>3. 「総合的な探究の時間」のさらなる充実を図る。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) フィールドワークなどにより、生徒の見聞を広げることができたか。</li> <li>(2) 企業や大学、行政などとの協働により、より高度で論理的な思考ができたか。</li> </ol> </li> <li>4. 英語教育の充実 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「聞く」「話す」の充実ができたか。</li> </ol> </li> <li>5. 新学習指導要領に基づく授業を効果的に実践することができたか。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 新評価方法を加えたシラバスの作成とその検証が行われたか。</li> <li>(2) 新学習指導要領の目的や期待される効果に相応した授業展開がなされたか。</li> </ol> </li> <li>6. ICT教育、ALを充実させ、本校の特徴の一つとして発信する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) タブレット端末を効果的に使用し、どれだけの教育効果が得られたか。</li> <li>(2) ICTを活用し、課外学習や家庭学習の充実が図れたか。</li> <li>(3) オンライン授業を適切かつ効果的に実施できたか。</li> </ol> </li> </ol>	

## ■反省並びに来年度に向けて

### 【学び直し】

- ・教科担当と授業担当が違うこと、生徒の学力差が大きいのに同じ教材を使用していることなど、やり難い点が多かった。
- ・教材（公文式のように生徒一人ひとりのペースで進められるものなど）や進め方（担当者）について検討する必要があると考える。

### 【ICT教育】

- ・ロイロノート導入で、今後より生徒の現状に合ったICT活用を進めることができると考える。来年度から全教員が活用できるように、今年度中に研修を行っていく。

### 【学力向上】

- ・授業アンケートを行うことで教員の資質向上、授業改善に繋がったと考えるが、アンケートを行う時期（一斉ではなく、各教科で検討するなど）や匿名にする・しないなど今後検討が必要である。
- ・授業見学や公開授業の機会を増やす。

### 【英会話力向上】

- ・英語を“使う”に重点を置いた授業やアプリを導入していく。（英語科）
- ・ニュージーランド留学について、進学相談説明会やオープンスクール等で生徒に発表してもらったり、展示をしたりすることで、情報が中学生や生徒に伝わりやすかった。来年度以降も継続していけると良い。

## 【重点方針】 4. 生徒に対する支援の充実

【事業目標】	生活満足度を高め、「楽しい」「成長した」が実感できる校内生活にする。
【評価指標】	入学生の95%以上の生徒を卒業させる。 95%以上の生徒がクラブに所属し、クラブ目標に添って活動できているか。

施策名	内容	関連部局 (担当部局)
教育相談にかかる 支援の充実	① スクールカウンセラーによる専門的なアドバイスに基づく助言・援助を充実させる。 (評価指標) SCが継続的に配置されているか。	生徒指導 特別支援
	②教員同士、あるいは家庭との連携を密に取り、皆で一人の生徒を見守り、育てるという体制を整える。 (評価指標) 転退学者5%以内とする。	生徒指導 学年会
	③教員研修の充実。生徒指導、クラス運営、教育相談の研修を通し、生徒や保護者との関係構築方法を学ぶ。	生徒指導 管理職
	④SSWの活用。	管理職

クラブ活動及び生徒会活動の充実	① クラブ加入率を高め、生徒の達成感とさらなる目標設定の支援を行う。 (評価指標) クラブ加入率95%以上とする。 クラブ活動における成果が、生徒の満足するものであるか。	学年会 課外活動
	② 生徒会活動の自主性を高め、生徒の達成感とさらなる目標達成の支援を行う。 (評価指標) 生徒会主催行事が生徒の満足するものであるか。 従来の活動に加えて、どんな活動ができたか。	生徒会
	③ 施設、設備を整え、安全で効果的な活動ができるようにする。 (評価指標) クラブ活動場所が適切に確保されているか クラブ活動資金が適切に準備執行されているか。	管理職 課外活動
飯田女子高校通信課程への転学	① 転学を希望する生徒へ、本校内に設置される飯田女子高等学校通信課程への転学を進め、高松学園からの生徒流出を避ける。 (評価指標) 転学者のほとんどが飯田女子高校へ転学	管理職 通信課程
今年度の主なる留意点		
1. 担任、学年主任、係が連携して、生徒の日常を観察理解し、情報を共有する。 (1) 学年会が適切に運営されているか。 (2) 三者の相互連携が図れているか。 2. クラブ活動が「活動の指針」に基づき、効果的かつ教育効果が高まる活動を行う。 (1) 「活動の指針」が顧問、生徒、保護者の間で共有され、実践できているか。 (2) 生徒が活動を通して、自己発見と自己研鑽ができているか。 (3) 教員ならび生徒が適切な「休み」を取り、活動が行われているか。 3. 行事のあり方を従前に近づけることができたか。 (1) 生徒が積極的に行事に取り組むことができたか。 (2) 教員が、生徒とともに行事に取り組み、本校のあり方を大切にできたか。 4. SCと連携し、適切かつ効果的な教育相談ができたか。 (1) 生徒並びに家庭との相互理解を深めることができたか。 (2) 教員のスキルが高められたか。 (3) 転退学者の減少(5%以内)が実現できたか。 5. 飯田女子高校通信課程伊那西学習センターの設置および、運営		

## ■反省並びに来年度に向けて

### 生徒指導

「本当の楽しさ」を経験するには、教員が生徒にある程度の耐性を身に付けることを教えていかなければならない。ただそれは同時に教員自身も耐性を身に付けるということである。そのためには担任、学年、係がそれぞれの立場を互いに尊重し、そこに家庭への協力を求めながら、生徒にとって最善の対応に努めていけるような体制を構築できればと考える。



## 課外活動

クラス以外のもう一つの居場所がクラブ活動である。昨今、各クラブの部員の人数の減少が著しい中、本校のクラブ活動は現状を維持している。各顧問ほとんどの先生方が専門性を生かして活躍してくれている。

今年度運動クラブ加入率…34%。文化部加入率…57%。全体加入率…90%。

インターハイでは全クラブで県大会出場を果たした。全国大会や北信越大会に出場を果たしたクラブや同好会もある。新人戦でもほぼすべての競技で県大会出場をした。文化クラブでも県展最優秀賞、全国大会出場など活躍がみられる。

## 生徒会

### 1. 通常行事および創立40周年記念特別活動

本年度は通常の行事に加え、創立40周年を記念してさまざまな特別活動を実施した。特に本校と同じく真宗大谷派系列の小松大谷高校と連携し能登半島地震に寄せた被災支援の募金活動を行った。

### 2. 地域貢献活動

警察署との連携により、闇バイト撲滅に向けた啓蒙活動を行った。また、赤い羽根募金の実施を通じて、社会貢献活動への理解を深めた。加えて、地域と協働して伊那まつりでのキッズスペースを運営。さらに継続的に地域振興活動を積極的に取り組み、年度最後には地元の高大連携活動として南信工科短期大学のオープンキャンパスにおけるコラボ活動を実施した。

### 3. 学校行事への自主的な取り組み

文化祭などの諸行事や、中学生に対する体験入学など、生徒たちは目的意識を持ち、自主的に取り組むことができた。これにより、生徒たちは所属意識を高め、一層の成長を遂げることができた。

## 通信課程

学習センター開設に向けての準備を進め、10月1日よりスタートすることができた。現在、本格始動への段取りを進めている。教員が伊那西(全日制)との兼任であることの強みを生かした学習活動を展開するべく模索中である。

【重点方針】 5. 地域貢献・地域連携活動の推進

【事業目標】	地域と恒常的かつ効果的に連携が整い、生徒の成長に寄与させる。
【評価指標】	生徒が地域の一員としての自覚を高めているか。 地域の本校理解が進んでいるか。

施策名	内容	関連部局 (担当部局)
地域との恒常的な連携の構築	①地域の活動に加わり、生徒の社会性の向上を図る。 (評価指標) 生徒の関わり状況と生徒が何を学んだか。	課外活動
	②本校の諸活動に地域の協力をいただき、本校に対する理解度を高める。 (評価指標地域)からどれだけの声かけをいただいたか。	課外活動 教育課程 (探究)

今年度の主なる留意点
<p>1. 地域との連携を深め、地域に根ざした学校作りをする。</p> <p>(1) 生徒が地域との関わりを通してどのような学びを得たか。</p> <p>2. 課外活動の「成果」「実績」を重ね、それを効果的に発信する。</p> <p>(1) 広報が効果的に行われたか。</p> <p>(2) 地域からの要請にどう応え、それをさらにどのように発展させることができたか。</p>

■反省並びに来年度に向けて

課外活動 <運動クラブ>

バスケットボール	: 上伊那の中学校と合同練習を非定期で行い、中学生を高校生が指導することで、高校生の成長を高めるとともに交流を深めることができた。
ソフトボール	: 西春近北小学校のボール運動クラブを指導・支援した。信州知的障がい者ソフトボールクラブとの合同練習会(ボランティア)。長野県内の中学校チームと合同練習を行った。
卓球クラブ	: 西高祭では中川中を招待して中学校との交流試合を実施、また、上伊那の中学校(中川中・箕輪中)と合同練習を行い、交流を深めた。上伊那地区の一般の大会においては、大会に参加して地域の方々と交流するだけでなく、補助員として会場準備や審判、片付け清掃などを行い貢献している。
陸上競技	: 男女を問わず伊那の競技場で練習する中学生たちと一緒に練習することで、『誰が』ということなく、『同じ上伊那の選手』という仲間意識を持たせることができた。
弓道	: 西高祭や一日体験入学を通して、弓道の面白さを中学生や地域の人に知ってもらうことができた。

## <文化クラブ>

- 家庭科 : 芸術フェスティバルで作品を展示し、地域の方々に見てもらうことで、クラブの活動を知っていただくことができた。
- インターアクト : 伊那市駅の清掃を数回実施し、駅とその周辺の整美に努めた。伊那市社会福祉協議会主催の様々なボランティア活動に参加し、本校インターアクトクラブの様子を地域の方々に広く知ってもらうことができた。また、障がい者支援施設や特別養護老人ホームなど各施設から交流会などのお話も多数いただき、実際に訪問することで利用者の方と交流を深め、社会の多様性を知ることができた。
- 合唱 : 伊那食品からの依頼で、地域に向けてのコンサートをかんでんぱ祭りで行えた。
- 吹奏楽 : 地域企業や団体主催の催しにアトラクションとして参加した。
- 折り紙工芸 : 駒ヶ根市昭和以南病院のギャラリーに作品を展示させていただいき、通院の患者様からお褒めの言葉をいただいたほか、沢渡駅ギャラリー展示、芸フェスなどの機会に作品を発表するなど地域での活動に重点を置いている。
- 文芸 : 沢渡駅ギャラリーや芸フェスでの展示を通してクラブ活動の発信ができた。
- 演劇 : 西高祭での公演や一日体験入学等のクラブ体験を通して、中学生や西高祭を訪れてくれた方に活動を知っていただけた。他校との合同公演として3月に春季公演を行い、地域の方々や中学生に演劇を知ってもらえる機会を持つ。
- 茶華道 : 伊那能において、生け花を展示させていただいた。また、芸術フェスティバルでは呈茶を行い、近隣の方々にささやかながらも、おもてなしをすることができた。
- 書道 : 伊那警察署からの依頼で交通安全啓発の書道パフォーマンスを行うなど、発信や貢献をした。
- 英語研究 : KOA株式会社と協働し、地元をPRするための動画の英訳を行った。また、英語検定取得をほとんどの生徒が達成した。
- マルチメディア : 西高祭や芸術フェスティバル、ネット上の作品投稿サイトにて、作品の展示や投稿をしてきた。また、情報検定についても多くの生徒が挑戦し、資格を取得してきた。
- 美術 : 伊那美術展や長野県美術展に参加し、地域の美術を愛好している方々と接し学ばせて頂いている。地域の文化祭、沢渡駅ギャラリー、美術フェスなどに作品を展示し情報発信が出来た。
- 写真 : 高校写真展をはじめ、高文連の主催する写真コンテストに参加し全国大会出場を決定するなど、生徒の作品を多くのコンテストへ出品できた。

【重点方針】 6. PTA・同窓会との協力

【事業目標】	PTA・同窓会と協力し、学校運営を活発化する。
【評価指標】	PTA・同窓会が積極的に学校運営に参加したか。

施策名	内容	関連部局 (担当部局)
PTAと連携 PTAからの理解 と協力	① P T A活動のあり方を再検討する。(学校行事・講演会・公開授業・P T A研修など) (評価指標) P T Aの積極的な参加があったか。本校の教育活動に理解と協力が得られたか。	管理職 PTA
同窓会との連携 同窓会からの理 解と協力	①同窓会活動に対して、同窓生の積極的な参加を促す。 (評価指標) 同窓生が本校の教育活動に興味を示し、同窓会活動や募集活動に協力的になったか。	同窓会

今年度の主なる留意点

1. PTA・同窓会の発信力を高める。
  - (1) 活動内容や活動の重要性を周知できたか。
2. PTA・同窓会の本校に対する意見や希望を吸い上げ、学校発展の手がかりとする。
  - (1) 「保護者アンケート」を効果的に実施し、検証できたか。
  - (2) 同窓会の出席者を増やし、同窓生の声を聞くことができたか。
  - (3) 諸活動を従前のあり方に近づけ、相互の連携を深めることができたか。

■反省並びに来年度に向けて

① P T A

- ・久しぶりに懇親スポーツ大会を行うことができた。保護者と職員の親睦が深まり、全体的に好評であった。懇親会に限らず、スポーツ(特にソフトボール)を楽しみにして参加している保護者も複数いるということがわかった。次年度も実施した方がよいという意見が多く聞かれた。その周知の仕方については今後の課題である。
- ・学級P T Aに関しては、クラスの現状を鑑み、必要に応じて実施していくのがよい。また、実施する場合も懇親会に限らず、生徒を交えてのクラス会や、学年全体のP T Aなど、必要な形で行うほうがよい。

② 同窓会

- ・学校創立40周年を記念して、今年度設置されたスタディルームで使用できる学習機を同窓会として16台寄贈した。そのほか、課外活動の遠征費補助など従来から行ってきた教育活動への支援については、今まで通り実施している。
- ・これまで毎年継続して行ってきた、今年度も準備を進めてきた同窓会総会が、初めて出席者なしにつき実施できなかった。今後の総会の在り方や周知について検討する必要がある。

【重点方針】 7. 進路支援の強化・充実

【事業目標】	100%の進路保障
【評価指標】	卒業生全員が進学先、就職先を決めて卒業する。

施策名	内容	関連部局 (担当部局)
進路の多様性の周知	①進路ガイダンスを適切に実施し、多様な進路があることを周知させる。 (評価指標) 生徒の進路志望と進路状況に合ったガイダンスであるか。	進路指導
	②体験入学やインターンシップなどを通じ、適性を見極めをするとともに、努力目標を設定させる。 (評価指標) 進学希望者が複数校の体験入学に参加できたか。就職希望者がインターンシップに参加し企業から良好な評価がいただけたか。	進路指導 学年会
高大連携授業の推進	①姉妹校ならびに関連学校を中心とした高大連携授業を推進し、建学の精神を体現するとともに、広く学問に触れる機会とする。 (評価指標) 参加した生徒が何を学び自己の進路にどう役立ったか。	学習
	②高度な学習機会を得ることで、向学心を刺激し、自己研鑽の必要性を認識させる。 (評価指標) 参加した生徒が何を学び自己の進路にどう役立ったか。	
大学進学実績の向上	①大学入学者選抜改革に対応したカリキュラムの構成を行い、一般入試における生徒の受験力向上に努める。 (評価指標) 進学希望者の90%以上が第1志望の学校に合格できる。	進路指導 教育課程
	②探究をはじめ、小論文、プレゼンテーション、面接等の力を強化し、総合型選抜、推薦入試における生徒の学力向上に努める。 (評価指標) 進学希望者の90%以上が第1志望の学校に合格できる。	学習 進路指導
就職支援の充実	①地元産業または地元企業に対する理解を深め、適切な進路選択ができるように支援する。 (評価指標) 就職希望者の100%が内定をいただける。	進路指導

## 今年度の主なる留意点

1. 生徒・保護者に対して、適切かつ効果的な進路指導を行う。
  - (1) ガイダンスが生徒・保護者にとって効果的に行われたか。
2. 新入試制度に対応したカリキュラムを構築する。
  - (1) 本校の実態に照らしながら、本校を方向性を示せるカリキュラムが構築できたか。
  - (2) 新しいカリキュラムが、本校の実態に合い、かつ、効果的なものであったか。
3. 生徒の希望に添った進路を提供する。
  - (1) 進路の多様性を示すことができたか。
  - (2) 当該生徒に適した進路の情報を提供できたか。
  - (3) 生徒の進路実現が図れたか。
4. 新学習指導要領に基づくカリキュラムを編成する。
  - (1) 本校の実情に合ったカリキュラムが編成できたか。
  - (2) 新しい形式のシラバスに基づき、授業を展開し、新しい評価方法に対応できたか。
5. 総合的な探究の時間の構築と実施
  - (1) 目標にあった取り組みができ、それによって生徒の成長が見られたか。

## ■反省並びに来年度に向けて

### 進路指導

- ・進路ガイダンスは計画通り行うことができ、多くの生徒の進路決定の参考になった。キャリアフェスに関しては、多くの企業が参加され、地元の産業について、各ブースで説明を受ける事ができ、大きな成果が得られたと考えられる。
- ・基本的に、担任主導での進路指導になってしまっているので進路指導係がもっと個々の生徒の進路に携わることができるシステムが必要である。
- ・進路指導の一環として、特別指導や朝学習などでは取り組みが曖昧になり、目的をもったものとして具現化できていない状況であった。今後、進路指導係がチームになり現在の多様化する入試に対応できる指導体制を構築していきたい。

### 学習

2学期よりStudy Room(自習室)を設置することで、学習に集中しやすい環境を整えることができた。来年度はより活用できるように、利用方法や設置場所を検討していく。

### 教育課程

今年度から全学年が新教育課程になり、新しい科目の学習が始まった。それらについては特に問題なく実施されている。また新しく学校設定科目として「学び直し講座」を1年普通コースに1コマ実施している。充実した学びができていると感じている生徒がいる一方で、時間を持て余している生徒もおり、実施内容について検討が必要である。来年度からは、英数国の教科に学び直しを委ねる方向で検討していきたい。

総合的な探究の時間については、1, 2年進学コースおよび3年生についてはクラス単位で実施し、1, 2年生の普通コースについては、いくつか講座を開設し実施した。多くの生徒が意欲的に取り組み、外部にて発表するグループもあった。一方で、探究活動の実施方法についてさまざまな意見があり、改善の余地がある。来年度に向けて、よりよい探究活動が実施できるよう係で検討していく必要があると感じる。